

JET からの手紙

姉妹都市交流を中心とする札幌 ～コロナ禍の国際交流の現状～

札幌市総務局国際部交流課 ドイツ国際交流員
Oliver Christian Gierl (オリヴァー・クリスティアン・ギール)

ミュンヘン—札幌

今年、札幌市とドイツのミュンヘン市の姉妹都市提携が締結されてから 50 周年にあたります。そして、私はちょうどミュンヘン出身です。まだミュンヘン大学で日本学を学んでいた 2019 年に JET プログラムに応募した私は、姉妹都市であるにもかかわらず、札幌のことをよく知りませんでした。しかし、札幌市の内定が届いた時に、これ以上の運命的な出来事は滅多にないと思い、嬉しさのあまり笑顔を一日中隠すことができませんでした。ミュンヘンと札幌にはさまざまな共通点があります。両都市は 100 万人以上の人口です。ミュンヘンの人口は約 158 万人で、札幌の人口は 197 万人くらいです。両都市は北緯 45 度前後に位置し、自然が豊かで山もとても近いところにあります。そして、ミュンヘンも札幌もビールで有名な町です。共通点がもともと多かったのですが、姉妹都市提携のきっかけとなったのは、1972 年に開催されたオリンピック競技大会でした。同じ年に、札幌はオリンピック冬季競技大会、ミュンヘンはオリンピック夏季競技大会の開催地として選ばれました。今でも両都市で当時使われていた施設などがたくさん残っており、市民に愛されています。

札幌市の国際交流員

当時 7 人の国際交流員 (CIR) のうち 5 人は、国際部に勤めており、札幌市の姉妹都市であるアメリカのポートランド市、ドイツのミュンヘン市、ロシアのノボシビルスク市、中国の瀋陽市、韓国の大田広域市との交流を、それぞれ担当していました。他の 2 人の CIR はそれぞれ

れ経済観光局観光・MICE 推進部 (アメリカ) と市民文化局文化部 (フランス) に勤務していました。しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大し、任期満了した

交流員の後任が来日できないことになり、3 人の CIR しかいない期間も数か月ありました。何回も来日が延期になりましたが、CIR が今年 4 月でようやくまた 6 人に増えました。



2019 年秋の 7 人の国際交流員
(札幌時計台前)

新型コロナウイルス感染症前の仕事

私が札幌市にドイツ CIR として着任したのは 2019 年 8 月でした。新型コロナウイルス感染症が拡大する前の年だったため、「JET プログラム来日直後オリエンテーション」と秋の中間研修がまだ通常通り開催され、緊張しながら最初の数か月を楽しく過ごしました。職場で主に担当しているのは、ドイツとミュンヘン市に関するプロジェクトや依頼です。特に 5 年に 1 回盛大に祝われる



当時のドイツ大使と札幌散策
(大通公園、2020 年)

札幌ミュンヘン姉妹都市提携の周年がとても大きな部分を占めています。45 周年から 2 年が経った 2019 年に着任したため、当時姉妹都市関係の仕事は少なかったですが、学校

訪問や出前講座などでドイツのことを札幌市民に紹介、ドイツからの来賓を迎えたほか、通訳や翻訳の仕事もありました。1年目の時は、札幌国際プラザで、



世界ふれあいひろば 2019 で児童と世界のゲームを体験

CIR を学校に派遣し、国際交流や異文化理解の講義を行うという業務も担当していました。当時7人のCIRと依頼があった学校の間に入り、日程やプレゼンテーション内容などの調整をしていました。札幌国際プラザは、他にもさまざまな事業を通して国際交流の推進に努める団体で、「レッツトーク」という言語交流プログラムで6か国語のフリートークも実施していました。私も週1回ドイツ語学習者とドイツ語で交流し、たまに仕事外の時間でも近くのドイツ料理屋さんで食事をしていました。さらに、札幌市在住外国人が安心して生活できるよう、札幌国際プラザでは外国人相談窓口の運営の他に多言語対応の改善に努めています。また、CIR はよく災害訓練などにも参加し、災害時の外国人の対応について助言しました。

オンラインのニューノーマル

2020 年前半、新型コロナウイルス感染症が日本でも拡大し、いつまで長引くかが予想できなくなったため、多くのプロジェクトが中止かオンライン化されました。オンライン会議ソフトを利用し、遠隔でも札幌市の子どもたちや市民にドイツの魅力を伝え、SNS の効果的な活用も検討しました。その結果、札幌市の CIR は、2021 年の1月から YouTube に定期的に動画をアップロードし、12月からはインスタグラムも始めました。そのために動画編集などに必要なソフトウェアや機材を購入し、独学で使い方や SNS の基本を覚え、異文化の情報発信に努めています。

以前、札幌国際プラザで開催されたドイツについてのセミナーやイベントも会場できなくなりま



オンラインと会場で同時開催のハイブリッドイベント

した。コロナ禍でのセミナーは完全にオンラインで実施していましたが、今年初めてハイブリッドイベントにも挑戦しました。

現在と今後の取り組み

冒頭で述べた通り、今年は、札幌ミュンヘン姉妹都市提携 50 周年の大きな節目です。新型コロナウイルス感染症の収束を祈りながら、両都市で記念事業などを検討しています。オンライン会議が浸透している今だからこそ、7~8時間の時差にもかかわらず、ミュンヘンとの打ち合わせや連絡が以前より活発になっているので、通訳や翻訳の仕事も徐々に増えています。来日してから、一度も国に帰れていない私は、今年2回も故郷のミュンヘンに出張で行くことになるかもしれません。そして、現在、両都市の新しい姉妹校提携に力を入れています。

今年もまだまだいろいろ不安ですが、新型コロナウイルス感染症が一刻も早く収束し、訪問や対面での交流がまたできるようになることを祈っています。

プロフィール



Oliver Christian Gierl

(オリヴァー・クリスティアン・ギール)
ドイツ連邦共和国バイエルン州
ミュンヘン市出身。AFS 留学プログラムを通して神奈川県横須賀市の高等学校に通いながら1年間

日本人家庭でホームステイ。ミュンヘン大学文化学部日本学科・中国学科に在学中、東京の大正大学に交換留学およびドイツ文化センター（ゲーテ・インスティトゥート）の広報部でインターンシップ。日本学科学生会会長やボランティアなどを務め、ミュンヘンで独日交流を推進。2019年からCIRとして札幌市で勤務。任期満了後は、またドイツでも日独交流に努める予定です。

札幌市の CIR の SNS をフォローしたい方は
以下をスキャン！

